

# 地元にもある！ 残したい 大切な建物

山元町文化財 蓑首城跡三の丸（坂元字館下）

おおえだ け  
大條家ゆかりの  
茶室

■ 仙台藩の茶の湯の歴史・文化を伝える  
唯一残る茶室

■ 伊達政宗が豊臣秀吉から拝領した茶室  
との伝承をもつ

山元いっ茶組 2020年10月

## 課題

- ・震災以前より現在まで放置され、痛みが増加の一途
- ・令和4年に茶室完成との役場表明が出ているものの、予算措置は未着手。動きが遅々。

町の誇り、自慢の茶室  
皆が楽しくつどう文化スポットにするために

茶室のことで知り、関心を持とう  
知恵をしぼって役場に町民意見を届けよう  
アクションしよう

## 茶室の推移

- 天保3年 蓑首城主・大條家(15代道直)が伊達家から拝領(伊達家跡継ぎ問題解決の褒賞)
- 仙台城下の大條家屋敷(川内)に移築
- 明治21年 仙台市支倉町に移築
- 昭和7年 山元町坂元の蓑首城三の丸に移築
- ★平成14年(2002年)山元町の文化財に指定

## おおえだ け 大條家について

- ・仙台藩伊達家の御一家(藩政の要職につく一族)
- ・初代は伊達宗行。伊達本家第9代政宗の弟(室町時代初中期)
  - \* 独眼竜・貞山公政宗は第17代
- ・1415年福島県梁川町大枝邑に所領。大枝姓を名乗る。その後、大条、大條と変遷。明治初に「伊達」姓に復帰
- ・1616年第8代大条宗綱、第17代貞山政宗から坂元に知行替を命ぜられる。以降、要害(蓑首城)城主、奉行職を歴代継承
- ・2000石から4000石と禄高増。仙台城下に屋敷
- ・仙台藩の諸々の主要問題解決に活躍
- ・第17代大條孫三郎道德(最後の蓑首城主)は、仙台藩主伊達慶邦を助けた戊辰・幕末処理の功績により、明治3年「伊達」(伊達宗亮)に復する
- ・現在、大條家20世は伊達宗行氏。物理学者、仙台藩志会会長。在仙台

# 01 坂元地区の歴史遺産を守り、人々が集う場所を目指して

## 「山元町指定文化財茶室・葦首城大手門・板倉等整備基本計画」を策定しました

園生涯学習課 生涯学習班  
☎ 36-8948

### 整備計画の目的

— 坂元地区の歴史の保存と活用 —

下郷区と町区は、江戸時代に坂元を治めた「大條家」の城下町でした。この地域には、大條家の居城「葦首城跡」や大條家ゆかりの建造物「茶室」、幕末から残る町割りなど、数多くの文化財が現存しています。

これらの文化財は保護するだけでなく、同時に歴史に親しむ機会を創出するなど積極的に活用していくことが大切です。このため、町では今年3月に、これらの文化財を後世に伝えていくための整備方針として「山元町指定文化財茶室・葦首城大手門・板倉等整備基本計画」を策定しました。

### 整備計画の基本方針

— 文化財の「保護と活用」の共存 —

- ① 下郷区と町区の貴重な文化財の保護と伝承
- ② 次代を担う子どもたちの教育資源
- ③ 茶室を活かした文化活動の場
- ④ 文化財を活かした交流拠点



▲幕末ごろの下郷区の絵地図（複製）。図面の上が南を示す。【歴史民俗資料館蔵】

### 整備計画の範囲

— 大條家が残した歴史遺産が対象 —

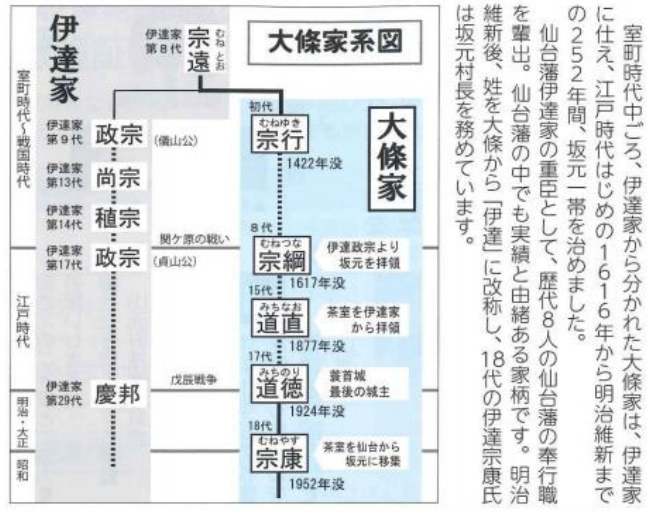
下郷区と町区を「大條家のいにしえに思いを馳せるまち」として位置付け、「葦首城三ノ丸ゾーン」、「葦首城本丸ゾーン」、「大條家御廟ゾーン」の3つに分けて、それぞれの特性を生かした「山元らしい個性と魅力あふれる整備と活用を目指します。」



**歴史解説**  
幕末ごろ、下郷区は「武家屋敷」、町区は「坂元宿」として栄えました。現在も当時の町割りの面影が色濃く残っています。

## 大條家解説

仙台藩伊達家に仕え、坂元の礎を築いた家系



室町時代中ごろ、伊達家から分かれた大條家は、伊達家に仕え、江戸時代はじめの1616年から明治維新までの252年間、坂元一帯を治めました。

仙台藩伊達家の重臣として、歴代8人の仙台藩の奉行職を輩出。仙台藩の中でも実績と由緒ある家柄です。明治維新後、姓を大條から「伊達」に改称し、18代の伊達宗康氏は坂元村長を務めています。

## 茶室解説

仙台藩の茶の湯文化、歴史を伝える貴重な遺構

坂元小学校北側（下郷区）の町有地に所在し、江戸時代末期に大條家が伊達家から拝領した建物です。昭和7年に仙台の大條家屋敷から移築され、現在に至ります。

仙台藩の上級武士住宅に多く見られた書院式茶室がほとんど見られなくなった現在、現存する茶室はとても貴重な建物といえます。



▲茶室修復後のイメージ図

- ～茶室年表～
- 【天保3年(1832)】15代 道直が伊達家から茶室を拝領(伝) 仙台の大條家屋敷に茶室が置かれる(仙台川内付近)
  - 【明治21年(1888)】大條家屋敷の移転に伴い、茶室も移築される(仙台支倉付近)
  - 【昭和7年(1932)】18代 宗康が仙台から現在地に茶室を移築(以後、個人宅で保管される)
  - 【平成14年(2002)】茶室を山元町指定文化財に指定。建物が町所有に
  - 【平成23年(2011)】東日本大震災発生 茶室が損傷を受ける
  - 【平成30年(2018)】茶室の応急処置を実施(仮養生工事)
  - 【令和2年(2020)】整備基本計画を策定



▲大正8年ごろの茶室(仙台支倉の大條家屋敷にあったころ)



▲平成20年ごろの茶室(現在地)



▲震災後の茶室

### 整備期間と今後の予定

本計画の期間は「令和2年度～令和10年度」です。老朽化が著しい茶室が所在する「葦首城三ノ丸ゾーン」の整備から順次着手する計画で、今年度は三ノ丸ゾーンの基本設計などを予定しています。